

令和7年度 愛知教育大学入学試験問題

標準的解答例または出題の意図及び評価の観点

【前期日程】

科目名：総合問題（養護教育専攻）

[問題Ⅰ]

（出題の意図）複数の資料を読み解き整理して、特に養護教諭を志す者として子どもを取り巻く現代的課題について自身の経験を踏まえて記述する能力を問う。

問1

（評価の観点）

- 「子どもたちが身に付けるべき力」が明確に伝わること（自分らしさ・これまでの学びを生かしていること）
- 体験に触れていること
- 根拠（理由）に基づいた意見（考え）となっていること

（解答例）

子どもたちが身に付けるべき力は、自分の意見を言葉にする力であると考えます。友人のAは、野球部の頭髪が自由でないことに抵抗があり、中学まで続けてきた野球を続けるか悩んでいた。「高校の野球部は、なぜ頭髪を自由にできないのか。理由が説明されないのでは納得できない。これまで通り野球部を続けていきたいのに。」と、中学3年生の担任のB先生に話した。AはB先生と何度も面談し、高校の部活の先生とも話した。高校に入学する時には、野球部の頭髪について清潔で運動に適している条件で自由になったと聞いた。資料1のこども大綱の基本的な方針の、「②こどもや若者、子育て当事者の視点を尊重し、その意見を聴き、対話しながら、ともに進めていく」を読んだ時、Aのことを思い出した。Aが「野球部の頭髪がなぜ自由できないか」と言葉にして伝え、対話を繰り返したことで思いが通じた。言葉にすることは周りに理解してもらうことにつながると思う。(398字)

問2

（評価の観点）

- 「養護教諭としての取り組み」が明確に伝わること（これまでの学びを生かしていること）
- 具体例が的確に述べられていること
- 自分らしさが表れた意見（考え）となっていること

（解答例）

私が小学生の時、保健委員会の活動で「けがをなくそう」という動画を作り、全校集会で発表することになったが、活動をさぼる委員がいた。養護教諭の先生が、一人ひとりの話を聴いてから、全員に対

して「自分ができることは何かな」と毅然とした表情で話したことを今も覚えている。資料3には苦痛や息苦しさを感ずる子どもについて書かれている。自分の周りにもリストカットを繰り返す人がおり、養護教諭は保健室で手当てをしながら話を聴き、自分を大切にするように伝えていた。私はこどもに寄り添い、一人ひとりに自分の心や体を大切にする力を育てる養護教諭を目指したいと思う。私が養護教諭になったら、けがや病気や相談などで保健室に来るこどもの話を丁寧に聴きたい。そして、こどもが自分の心や体を大切にすることができるように、「自分ができること」を問いかけることによって自分の意見や考えを言葉にできる力を育てていきたいと思う。(393字)

[問題Ⅱ]

問1

(解答例)

(1) 黒球 37.5℃、湿球 20.5℃、乾球 25.5℃なので、

$$\text{式} \quad \text{WBGT} = 0.7 \times 20.5 + 0.2 \times 37.5 + 0.1 \times 25.5 = 24.4$$

答え 24℃

(2) 黒球 46.5℃、湿球 26.5℃、乾球 32.5℃なので、

$$\text{式} \quad \text{WBGT} = 0.7 \times 26.5 + 0.2 \times 46.5 + 0.1 \times 32.5 = 31.4$$

答え 31℃

(3) 黒球 29.0℃、湿球 23.5℃、乾球 29.0℃であり、問題文より室内なので、

$$\text{式} \quad \text{WBGT} = 0.7 \times 23.5 + 0.3 \times 29.0 = 25.45$$

答え 25℃

問2

乾球の温度測定をしていることから、屋外での測定であることがわかる。

湿球 15.5℃、乾球 25.0℃であり、WBGT21℃なので、

$$\text{式} \quad \text{黒球温度} = \{ 21 - (0.7 \times 15.5 + 0.1 \times 25.0) \} \div 0.2 = 38.25$$

答え 38℃

問3

(出題の意図) 学校をはじめとして社会的に広く用いられるようになった熱中症予防の指標としてのWBGTの原理を正しく理解し、水(水蒸気)の物理的・化学的性質を踏まえて説明できることを問う。

(評価の観点)「水蒸気」「気化熱」という言葉を正しく用いていること、空気中に含まれる水蒸気の特性と温度、相対湿度の関係について中学校理科分野程度の内容を用いて正しく説明していることを評価する。

(解答例)

湿度が低い方が空気により多くの水蒸気を含むことができるため、湿球の温度と乾球の温度の差が大きくなる。水が蒸発するときには周囲の温度を奪い水蒸気になり、この特に奪う熱のことを気化熱という。湿球や、汗をかいた皮ふの表面では、水分が蒸発する際に気化熱で周囲の温度を低下させている。つまり湿球温度と乾球温度の差は、発汗時に皮ふ表面で作用する気化熱の影響をあらわしており、この差が大きいほど涼しく感じる。(197 文字)

[問題Ⅲ]

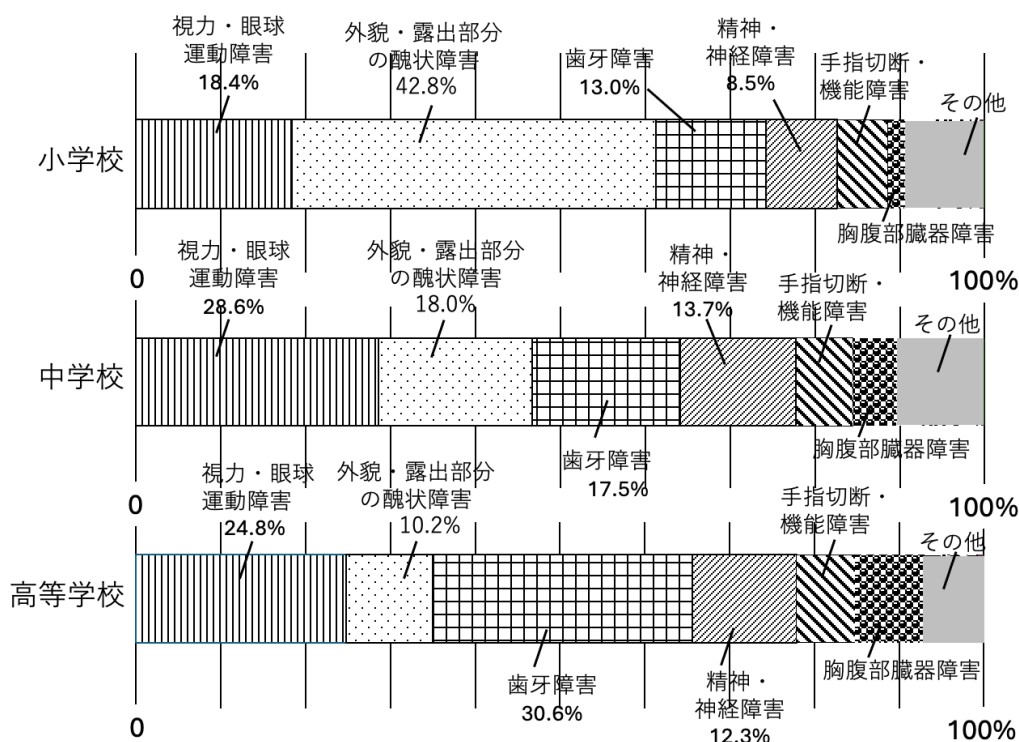
問 1

(解答例)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| ① 344 | ② 800 | ③ 242 | ④ 158 |
| ⑤ 614 | ⑥ 387 | ⑦ 375 | ⑧ 293 |
| ⑨ 696 | ⑩ 287 | ⑪ 860 | ⑫ 345 |

問 2

(解答例)



問3

(出題の意図) 学校で児童生徒の安全を管理する養護教諭として、学校内で事故が起きやすい危険箇所や行動、またこれらに対する安全対策や指導について、保健体育科での学習内容をもとに問題意識を持ち熟考できることを問う。

[事例1]の場合

(評価の観点)

低学年児童にはよくあることだが、一生懸命に走っていると周囲の物をしっかり認識できなくて、遊具などの固定具にぶつかってしまうこともある。そのために校庭の固定遊具などの支柱にはウレタンラバーなどの安全カバーを付けることがある。児童の動線を考えて、固定遊具の周囲を児童が走ることが多い場所には安全カバーを付ける対策が考えられる。あわせて、固定遊具の周囲などで鬼ごっこなどはしないように指導する必要もある。児童への指導と事故防止の環境面での配慮の両方が必要である。

(解答例)

安全対策：校庭の固定遊具などの支柱にはウレタンラバーなどの安全カバーを付けることや児童の動線を考えて、固定遊具の周囲を児童が走ることが多い場所には安全カバーを付けるなどの対策を行う。

指導：固定遊具の周囲などで鬼ごっこなどはしないように指導する。

[事例2]の場合

(評価の観点)

玄関や昇降口は、登下校の時間帯や休憩時間になると大変混雑する。異学年の子供たちが同一時間に同一場所で靴を脱いだり履いたりする様子は、まるで駅のラッシュ時のようである。当然、様々なトラブルや事故が起こる。この事例では、雨によって濡れた床を避けた数名の児童が靴箱に飛びついたことが原因となった。その勢いで倒れた靴箱が、たまたま通りかかった本児童の右足に当たってしまった。靴箱は床に固定されていて、多少の地震でも倒れないようになっているはずである。飛びついた子供の学年や人数が不明なので、どのくらいの力が加わったのか分からないが、もしこれが大きな地震であった場合でも、この靴箱は倒れていた可能性がある。床に簡単なL字型金具で止めただけでは、重い靴箱は支えきれない。頑丈な金具や装置で、しっかりと固定しておく必要がある。靴箱だけでなく、水槽、ロッカーや棚、大型テレビ、大型金庫など、子供が飛びついたり大きな地震が起きたときに倒れないようになっているかどうか、定期的に点検しておくことが大切である。

(解答例)

安全対策：下駄箱は、床に簡単なL字型金具で止めただけでは支えきれないため、頑丈な金具や装置で、しっかりと固定しておく必要がある。また、きちんと固定されているか定期的に点検することが大切である。

指導：下駄箱に飛びつくようなことはしないよう指導する必要がある。また、登下校の時間帯や休憩時間の玄関や昇降口は大変混雑するため、慌てたり、人を押したりしないよう指導する。